

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |            |  |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 3370301115       |            |  |
| 法人名     | 有限会社 フロンティア      |            |  |
| 事業所名    | グループホーム久米(2ユニット) |            |  |
| 所在地     | 岡山県津山市久米川南2551   |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和元年11月28日       | 評価結果市町村受理日 |  |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活が送れるよう利用者一人一人の心身の状態と潜在能力を把握し、利用者の希望に応じた暮らしを提供し笑顔と優しさで寄り添い職員と利用者の心が通う共存共有の生活空間を提供できる運営に取り組んでいる。また事業所理念である第二の我が家とし、ここでの暮らしが充実したものになるよう一日一日が楽しく穏やかな空気の中でゆったりと生活していただけるよう職員はいつも思いやりを持って優しい声掛け、目配り、気配りを行い心に寄り添うケアを心掛けている。また、24時間対応可能な協力医との連携で、直ぐに何かあれば対応して下さり利用者が体調良く過ごせるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                                   |  |  |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート                 |  |  |
| 所在地   | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和元年12月10日                        |  |  |

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年に開設して13年目という「GH久米」に訪問して、いつものように久米Ⅰと久米Ⅱの間の庭を歩き来しながら何か違うと気づいた。駐車場の一角が舗装通路に改装してあり、以前よりずっと歩きやすくなっている。課題だった両ユニット間の交流をもっと安全に行き来出来、活発にしよう、職員からの提案を社長が実行してくれたと聞いた。男女問わずこのホームの利用者は明るくて、楽しくて、そしてちょっと気難しい人もいて、個性的な役者揃いだ。どんな症状や境遇の人でも温かく迎え入れこの空気に馴染ませてしまう力が管理者・職員にはある。個性的な利用者が多いと管理者が言うように、いろいろなエピソードを聞いているだけで涙が出るほど笑えてきて、一人ひとりを愛おんでいる心が伝わってくる。地域の中にしっかり根を下ろし、地域福祉の拠点となっているホームの今後の活躍に期待しています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) |    |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |  |
|-------------------|-----|---|---|--|--|
|                   |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I 理念に基づく運営</b> |     |   |   |  |  |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 「第二の我が家」として、利用者一人一人の希望と願いを尊重し、我が家のように自分のペースでゆったりとした空間で穏やかな温もりのある生活が送れるようサポートしている。また管理者と職員はミーティング等で理念を共有し、定期的にケア目標を掲げ実践につなげている。          | 理念に掲げているように、開設以来13年間利用者にとってここが第二の我が家となるように職員は弛まぬ努力を重ねてきた。「思いやりの心」「優しい笑顔」等、数ヶ月毎に目標を設定し、自分らしく生活が送れるように、しっかりと一人ひとりに寄り添いながら日々のケアを実践している。 |  |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 地域の中学校の文化祭へ参加、職場体験実習を受け入れし子供達とのふれ合い、実習が終わってからも来訪して下さり、関わりを持っている。また地域の食堂に食べに出かけるなど定期的に交流を図っている。  | 地域の人、子供達との交流や地域行事等へ参加して日頃から地域交流を活発に行っている。少子化の影響で今年の秋祭りのだんじりの来訪はなかったが、散歩の途中で立ち話をする事もあり地域の人と関わる機会も日常的にある。                              |  |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 運営推進会議を通じて地域の方々に参加していただき、認知症についての勉強会を行ったり、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人の理解の輪を広げている。また、入居に関する問い合わせだけではなく、現在困っていることに対する支援方法など地域の方に分かりやすくお伝えしている。 |  |  |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 利用者の体調や生活の様子、日常の近況報告をしている。家族、地域からの意見、質問や要望等を出して頂き意見交換をする機会にしている。地域、家族の意見要望については改めて検討し、日頃の対応に取り入れサービスの向上に活かしている。                         | 2ヶ月毎に開催している運営推進会議の参加メンバーは実に多彩で、行政はもとより地域の主だった役職の人や交番勤務の警察官もほぼ毎回参加してくれる。ホームの活動報告、情報交換、意見交換等を話し合い有意義な会議を行っている。                         | 運営推進会議のあり方が、地域密着型サービス事業所のモデルケースのような形になっており、構成メンバーをみても地域の協力体制が素晴らしいと思う。今後も引き続き有意義な会議を開催して下さい。 |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 運営推進会議に地域包括支援センター、市の担当者へ出席して頂き、常に新しい情報を提供して頂いている。些細な質問、相談事項があれば、直ぐに相談し敏速に対応して下さる。   | 定期的に市の担当者・地域包括の職員と話し合う機会があり、情報交換や運営に関する相談をして助言や指導をいただいている。また、介護相談員の来所や年数回小地域ケア会議にも参加しており、日頃から良い連携を取り合っている。                           |  |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修会に参加し、随時ミーティング等で話し合い勉強会を開催している。身体拘束をしないケアを前提に、利用者が安全に自由に過ごせるよう、意見を出し合い身体拘束防止に取り組んでいる。   | 拘束は一切しない方針にしており、職員は身体拘束はそもそも絶対しないという共通認識を持って日々のケアに当たっている。身体拘束・虐待・言葉の暴力も含めて定期的に勉強会を行い、新人研修では報告書の提出をして身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。               |  |
| 7                 |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 研修に参加したり勉強会やミーティング等を実施し、情報を共有し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。  |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----|-----|--|---|--|--|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | どちらの制度も利用者が活用されている。社会福祉協議会が開催する研修に参加し制度について学び、ミーティング等で職員に情報提供し成年後見制度や日常生活自立支援事業を理解できるようにしている。 |  |  |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 時間を取って丁寧に説明し途中で理解が図れているか確認し疑問や不安点等がないか確認した上で同意を得ている。一方的な説明にならないよう納得して説明を受けられる体制に努めている。        |  |  |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 家族の来訪時はゆっくり面談し困っていること不安なこと要望等に耳を傾け、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。意見、要望があれば可能な限り対応し運営に活かしている。      | 年賀状や手紙を字の書ける人には本人に書いてもらっており家族にも喜ばれている。家族の面会時には積極的に意見や要望を聞くように努めているが、遠方の家族に対して、または必要に応じて等、電話やラインで連絡を取り合う事もある。       | 家族との信頼関係を築くようにして気軽に話し合える雰囲気作りをしているが、家族会を有効に活用したり、こちらから運営に対して意見を求めてみる等、家族からの意見や要望の引き出し方にも工夫を重ねてみたい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 日頃の職員間の会話の中やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けて反映させている。代表者と管理者は常に連絡を取り職員からの意見を伝えている。                        | 申し送りやミーティングで意見交換をし職員間で情報の共有をしている。以前からの課題でもあった両ユニット間を行き来しやすくする環境整備や鳥獣対策用のフェンスの提案を社長が実行してくれたとの事。職員の意見や提案が運営に反映されている。 |  |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休息をしている。                              |  |  |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が積極的に受講できるように支援している。研修内容をミーティング等で報告してもらい共有している。                          |  |  |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣の事業所同士で交流研修や事例検討等を通じて勉強会を実施し、サービスの質の向上に努めている。管理者の情報交換も行っている。                                |  |  |

| 自己                          | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                             |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |                   |
| 15                          |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に家族、ケアマネジャーの情報から性格、こだわり、行動パターンなどについて把握したうえで、関係作りを進めていき、本人の困っていること、不安なこと、要望等にしっかり耳を傾け本人が安心できるように努めている。 |  |                   |
| 16                          |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族とゆっくり面接して、困っていること、不安に思うこと、要望等に傾聴し常にご家族の立場になって、関係作りに努めている。また一番に利用者本位を尊重しながら家族との信頼関係を構築している。             |  |                   |
| 17                          |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入居時に家族、ケアマネジャー、医療関係者等の専門職から情報収集し、生活全般を捉えたうえでサービスを提案し、本人の機能向上を図れる支援を目標に行っている。また、他のサービスの情報提供も行っている。        |  |                   |
| 18                          |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 利用者は人生の大先輩で職員が寄り添いながら協働し、普段から色々な場面で色々な事を教えて頂きながら信頼関係を築いている。利用者が活躍発揮できる環境を提供し一緒に支え合いながら暮らしを共存している。        |  |                   |
| 19                          |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 面会時は職員と家族の交流の機会でもあり、日頃の状態をお伝えし家族の思いを聞き、利用者の思いも伝え本人と家族との潤滑油となるよう心掛けている。                                   |  |                   |
| 20                          | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 面会は時間帯等の制限なく24時間、365日受け入れています。また、外出、外泊などの機会が持てるよう家族、友人関係にも働き掛けている。また定期的に友人宅に訪問し関係が途切れないよう支援している。         | 日頃から家族の面会が多いが、今日も1日おきに面会に来る息子さんと自室でゆっくり過ごしている光景に出会う等、家族関係が良好な人が多い。自宅の庭に咲いている花を摘んできて活けたり、昔住んでいた場所へドライブ、娘と定期的に馴染みの美容院へ行く等、それぞれの馴染みの関係や場所の継続がよく出来ている。 |                   |
| 21                          |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 利用者同士が馴染みの関係になれるよう職員が会話のサポートをしている。一人ひとりが孤立しないよう、気が合う、趣味が同じ等の利用者との関係を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう工夫している。           |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など細やかに情報提供し、連携を心掛けている。また機会を作って訪問したり家族からの相談にものっている。   |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 利用者の日常会話、言動から今の思いや要望を把握し、利用者の思う暮らしに近づけるよう環境を整えている。また利用者の潜在している能力を引き出し、まだまだ出来ることがたくさんあるという喜びを感じ、生きがいを、楽しみに繋がるよう一人ひとりの把握に努めている。 | 開設当初から入所している101歳のAさんの目標は「115歳まで生きる」事であり、他の利用者も一目置き、職員もAさんから元気をもらえるそう。一人ひとりの思いや希望をしっかり把握して、その人の目標・生きがいのある生活をしっかり支えている様子が伺えた。           |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人やご家族との会話を通じ生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。またお友達や親戚の人からの情報も大切にしている。  |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 利用者一人ひとりの出来ること出来ないことを把握し、残存能力を確認しながら、現状を維持でき生きがい、満足感、達成感が得られる暮らしが出来るよう、日々心身状態の把握に努めている。                                       |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、ご家族より意向を聞き本人のより良い望む暮らしを提供できるよう、課題とケアの在り方について職員間で定期的にモニタリングを行い、利用者の生活の質の向上を目指し、介護計画に反映させている。                                | 利用者の担当制を敷いており、1ヶ月に1回カンファレンスを行い、状態の変化があればその都度職員間で話し合い現状に即したケアに繋げている。ケアプランの署名欄には本人の署名が何例もあり、意向確認、ニーズをよく把握し、精神面にも重点を置いた利用者本位のプランを作成している。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別に身体状況を把握し、食事、水分量、排泄、入浴、日々の様子、本人の発言、エピソード等を記録している。個別記録をもとにミーティング等で職員間で情報共有し実践、分析し介護計画の見直しに活かしている。                            |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人や家族の状況を把握し状況に応じて、病院の付き添い、通院時の対応等、必要な支援は柔軟に対応し個々のサービスに取り組んでいる。   |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員、愛育委員や老人会の方々と意見を交換する機会を設けている。友人や知人の面会により意欲向上が出来る。                                   |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 訪問看護ステーションより週一回の訪問を受け、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっていることで体調の変化に早急に対応でき、病状の早期発見につながっている。                     | 利用者全員が平福診療所をかかりつけ医としており、隔週での往診もある。受診等は職員が同行している。週1回の訪問看護や希望する人には訪問歯科もあるので医療と介護の連携も万全で安心して生活出来ている。   |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 週に一度訪問看護があり看護師に利用者の身体状況を細やかにチェックしていただき、異常があれば敏速に、ドクターに連携していただける。また、その都度相談、助言があり適切な看護を受けられている。             |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時は医療機関に情報提供し医療連携を行っている。看護師、相談員と細やかに連携を取り早期に退院できるよう努めている。また退院後、今後のケア方針を明確にするため、家族を含め他職種とカンファレンスを実施している。 |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居時に看取りについての説明を行い、身体状況の変化に応じて、その都度話し合い利用者、家族の意向を確認している。終末期に向けてのあり方について内容を深め、かかりつけ医、訪問看護と連携し共有しながら支援している。  | 開設以来3例の看取りを経験した。昨年ホームで看取りをしたBさんは、亡くなる前日まで歩き食事も普通に摂っていたが、眠るような穏やかな最期に、医療職の息子が「あっぱれじゃあ」と言って喜んでくれたと聞いた。今後も本人・家族の希望があれば出来る限りホームで支援をしていこうと思っている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 職員は年1回、救急救命法の講習を受け体験をしながら実践力を身に付けている。また、ミーティング等で緊急時の対応について定期的に行っている。                                      |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 消防署の協力を得て避難訓練を年2回行っている。地域の消防団員の方にも参加していただき、非常時も協力体制を依頼している。水害・土砂災害では地域との協力体制を築き定期的に机上訓練を行って災害対策を身につけている。  | 運営推進会議で「非常災害時の対応について」等、地域の人とも災害対策について話し合ったり、消防署員から心肺蘇生法の研修も受けている。毎年定期的に火災・地震等の災害に備えて避難訓練を行ったり、シュミレーションをしている。                                |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |  |  |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。                         | 人生の先輩として敬い、一人ひとりに寄り添うように努めており、羞恥心にも配慮して、人によっては脱衣場ではなく浴室の中で衣類の着脱をしてもらう事もある。また、排泄介助時はバスタオルで覆う、ドアは必ず閉める等に気をつけている。             |  |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 入浴時等、ゆったりとした時間の中で職員と会話を楽しみ、日頃の思いを打ち明けて頂けるよう働きかけている。また個別にドライブし気分転換を図りながら日常の思いや希望を表出してもらい自己決定できるよう支援している。    |  |  |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら気持ち良く過ごしていただけるよう支援を行っている。  |  |  |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 二ヶ月に一回訪問美容により、本人の希望に合わせた髪のカットと顔そりしてもらっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の好みに沿った支援を心掛けている。                   |  |  |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 利用者一人ひとりの好みの食事を積極的に取り入れ毎日食べる楽しみを持っていただいている。施設内にある畑で作った野菜を収穫し野菜の皮むきなどお手伝いしていただく。毎年恒例の干し柿作りは利用者と職員で一緒に行っている。 | 職員手作りの食事を伝統にしており、調理専門の職員もいて家庭的な料理を提供している。ミキサー食で食事介助の人もいるが殆どの人は自分の箸で食べ、「ここの食事は美味しい」と利用者にも定評があり、職員と一緒に楽しく会話しながら同じテーブルで食べている。 | 手作りで頑張っていたところも、人員不足等諸事情によりだんだん外部業者委託に変更するホームが多い中、毎日3食温かい手作りの家庭料理を食べられる利用者は本当に幸せだ。「医食同源」。これからも美味しい料理を提供して下さい。 |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | ひとり一人の体調と一日の摂取量を把握している。栄養士による栄養バランスに配慮した献立や食べやすい食器の工夫等、個別に対応している。  |  |  |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 自力で出来る方は声掛け見守りし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。義歯の方はポリデントを使用し清潔に保つよう心掛けている。                       |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄パターンを記録し、便秘の方には腹部マッサージも心掛けている。毎食時にはヨーグルトを提供しており、また繊維質の多い食材にも気を配り、積極的に散歩や運動を行っている。                      | 日中は布パンツで過ごす人が数名。リハビリパンツやパットを併用している人は半数以上。自立支援に向けた取り組みをしているが、夜間用またはその人の症状によってはポータブルトイレを居室に置いている人もいる。                      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 毎朝、軽く体操をし、食事には繊維の多いものを出来るだけ多く摂取するよう取り組み、それでも便秘の方には医師に相談し、下剤を服用して予防している。                                  |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴の有無を確認し、楽しみの一つとしてゆっくりと寛いだ気分で入浴していただけるよう支援している。一人ひとりのその日の健康状態を見極め希望やタイミングに合わせて入浴していただけるよう工夫している。        | 週3~4回入浴日を設けてマンツーマンでゆっくりと湯船に浸かって入浴してもらい、リラックスした状態でコミュニケーションを取っている。拒否がある場合は、場面・人・時間を変えてお誘いしたり、時には居室で清拭をする事もあるが、無理強いはない。    |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かれない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。居室の温度も個々の適温に調整し気持ちよく入眠できるよう支援している。      |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し全職員に分かるよう徹底している。服薬は利用者全員に手渡しして、飲み込みを確認している。                                  |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 野菜作りや野菜の皮むき、洗濯を干したり畳んだり、お花の手入れや草取り、色々な手作業等、得意な分野で力を発揮し毎日役割を持ってハリのある生活が送れている。気分転換の為に定期的にドライブ等外出支援を行っている。  |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 要望、希望があれば可能な限り対応をするよう心掛けている。利用者全員で外出するさいは、休みの職員のボランティアがあり安全に出掛けられる。また地域の行事で外出するさいは、地域の方の協力体制があり外出支援が出来る。 | それぞれのユニットで毎月発行している「GH久米だより」を見ても、一年を通して様々なイベントや外出を楽しんでいる様子がよく分かる。天気の良い日はベランダや庭で日光浴を楽しみ、気軽に散歩に出かける等、日常的に気分転換をする機会も多く作っている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 利用者による金銭管理は難しいため持たれていません。物品の購入の依頼があれば立替購入を行っている。  |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 利用者自ら電話が出来る方にはしてもらい、難しい方は職員が電話を掛け、話しをしてもらっている。手紙や年賀状が書ける方には、家族、友人あてに毎年送り、大切な人との手紙のやり取りが継続出来るよう支援している。                                 |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 女性の利用者が多いため、玄関、ホールには季節の花を飾って季節感を味わえる空間にしている。利用者が作成した塗り絵や貼り絵を廊下の所々に貼り定期的に交換している。ホールには大きなソファがあり、そこには利用者が集まりテレビを観たり居心地の良い温もりのある空間になっている。 | 敷地内に離れて建っている両ユニット間の交流を図りやすいように、庭に両棟を結ぶ舗装通路を整備し、交流の場や散歩の回数も増えたと聞いた。職員が考案した手作りの物を含め様々なアクティビティが用意されていて、自分の好きな事・得意な事に熱中している場面も多く見られ、リビングは明るく清潔な環境になっている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | ホールから直接テラスに出れる空間があり思うように出て外の空気を吸い景色を眺めたり、ベンチに座って気の合う利用者同士でコミュニケーションが図れる。ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり絵画や生け花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。       |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 衣類や寝具などは、使い慣れたものを持ち込んで使用してもらっている。定期的に家族に衣類の交換をお願いし好みの服を着て楽しませている。家族の写真や、神社のお札、位牌なども持ち込まれ居心地よく過ごされている。                                 | 畳敷きの部屋もあるが大半はフローリングにベッドの洋室である。自分で思うようにレイアウトしている部屋もあれば家族が飾り付けをしている部屋もあり、どこも個性が溢れるその人らしい居室になっている。それまでの生活習慣や思いを尊重して落ち着いて過ごせるように配慮している。                  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 居室入口には名札を掲げ、トイレの扉には大きな切り絵でトイレと分かりやすく表示しています。居室内は利用者の行動パターンを把握し、危険のないよう家具の向きやベットの位置など調整し、安全に過ごせるよう工夫している。                              |  |                   |